

事務事業評価シート2(一般事業)

1 基本情報

事業番号		0110/100590/14/00		事業の種類	5		
年度	19	事務事業名	地方バス路線維持補助事業	作成日	平成21年1月20日	重要度	4
予算事業名		地方バス路線維持補助事業		担当部課名	まちづくり推進室		
政策名		快適で魅力あるまちづくり					
施策名		公共交通		実施計画への記載	無	主要事業の指定	無
根拠法規及び関連法規							
事業の目的	誰のために(具体的に)	生活バス路線利用者					
	誰(何)を対象として	不採算生活バス路線の運行者					
	意図(どのような状態にしたいのか)	不採算の生活バス路線の維持					

2 事業の概要 Do

実施の概要		運行者に不採算生活バス路線の経常損失を補填する				
活動実績	項目	単位	17年度実績	18年度実績	19年度実績	20年度計画
	年間利用者数	人	75,667	89,724	74,720	75,000
	運行回数(2系統)	回	10.8		12.1	12.1
	運行回数(3系統)	回		13.3		

3 投入資源

会計区分		一般会計			事業費単位:円				
インプット指標		17年度決算	18年度決算	前年比	19年度決算	前年比	20年度予算	前年比	備考
人員	課長以上職員	0.108	0.083	76.9	0.085	102.4	0.081	95.3	
	主幹以下職員	0.060	0.015	25.0	0.025	166.7	0.050	200.0	
	臨時職員	0.000	0.000	-	0.000	-	0.000	-	
支出内訳	人件費	1,491,168	842,604	56.5	957,110	113.6	1,128,172	117.9	
	事業費	5,353,000	9,604,000	179.4	7,872,000	82.0	7,872,000	100.0	
	合計	6,844,168	10,446,604	152.6	8,829,110	84.5	9,000,172	101.9	
財源内訳	国庫支出金			-		-		-	
	県支出金			-		-		-	
	市債			-		-		-	
	その他			-		-		-	
	一般財源	6,844,168	10,446,604	152.6	8,829,110	84.5	9,000,172	101.9	
	合計	6,844,168	10,446,604	152.6	8,829,110	84.5	9,000,172	101.9	

4 評価指標

【有効性】

指標名1		補助対象路線利用者数							
指標説明(式)		生活バス路線利用者数							
指標単位	区分	17年度	18年度	前年比	19年度	前年比	20年度(計画)	前年比	備考
人	目標	75,667	75,000	99.1	90,000	120.0	75,000	83.3	
	実績	75,667	89,724	118.6	74,720	83.3			

指標名2

指標説明(式)									
指標単位	区分	17年度	18年度	前年比	19年度	前年比	20年度(計画)	前年比	備考
	目標			-		-		-	
	実績			-		-		-	

【効率性】

指標名1		利用者1名にかかるコスト							
指標説明(式)		生活バス路線維持補助金 / 利用者数							

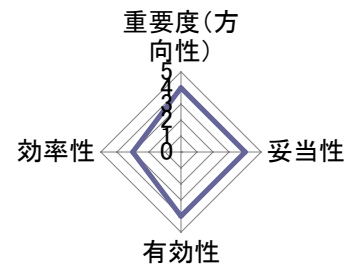
指標説明(式)		工/日ノハ距離運別補助並ノ利用日数							
指標単位	区分	17年度	18年度	前年比	19年度	前年比	20年度(計画)	前年比	備考
円	実績	71	107	150.7	105	98.1	105	100.0	
指標名2									
指標説明(式)									
指標単位	区分	17年度	18年度	前年比	19年度	前年比	20年度(計画)	前年比	備考
	実績			-		-		-	

5 事業の評価(19年度実績) Check

評価視点	具体的な評価観点	評価コメント及び現状認識	1次評価(係長)	2次評価(課長)
妥当性	目的の妥当性	不採算バス路線の助成にり市民の交通手段の確保	4	4
	市の関与の妥当性	市が補助金を交付して路線を確保することは妥当である。		
有効性	成果目標(改善)達成度	不採算路線が減り補助金額が減少した。	4	4
	市民サービス	沿線住民の利便性の確保に必要		
効率性	負担割合の適正化	運行経費からみて補助金の交付割合は適正であるが、今後バス事業者による営業努力も必要であると考えられる。	4	3
	手段の最適性	現在では最も効率的な手段である。		

6 課題として認識された点

評価視点	具体的な評価観点	内容
効率性	手段の最適性	運営効率化についてバス事業者との協議が必要



H19→H20予算反映額

(1) 評価結果を踏まえた19年度の改革改善内容

評価視点	具体的な評価観点	内容
有効性	市民サービス	利用者増を図り引き続き路線の維持する

H19→H20予算反映額 △192千円

降の改革改善内容

(2) 19年度の実施方針

バス利用促進のPRを強化する。

検討の有無	—
総合指標	21